

那 議 議 第 24 号
平成 29 年 6 月 26 日

那覇市長 城 間 幹 子 様

那覇市議会議員
翁 長 俊 英



第 5 次那覇市総合計画基本構想素案への評価と提言について

次期那覇市の最上位計画である「第 5 次那覇市総合計画」策定に向けて、那覇市議会においても日々、議論を重ねているところであります。

去る平成 29 年 5 月 19 日の全員協議会において、第 5 次那覇市総合計画基本構想の審議会諮問案の説明を受け、6 月定例会での質問、6 月 21 日開催の全員協議会での当該計画基本構想素案への質疑を重ね、各議員及び会派よりそれぞれの思いをいただいたところであります。

そこで、本市議会での意見の趣旨を別紙のとおり提言として取りまとめました。それらが第 5 次那覇市総合計画の策定の際に生かされますよう要望し、那覇市の最上位計画が素晴らしい計画となるよう、今後も那覇市議会としても積極的にかかわっていきたいと思います。

第 5 次那覇市総合計画基本構想素案の調査を終えて（提言）

去る平成 29 年 5 月 19 日の全員協議会において、執行部からの第 5 次那覇市総合計画基本構想（審議会諮問案）の説明を受け、6 月定例会での質疑や 6 月 14 日に開催した全員協議会での当該基本計画基本構想素案への質疑、議員間討議において、議論を重ねてきたところ、各議員から様々な意見をいただきました。

最初の基本構想の審議会諮問案から、審議会でも様々な意見も加えられ、那覇市の最上位計画として素晴らしい基本構想案となっていますが、各議員からも様々な意見が 6 月定例会や全員協議会においてありました。

つきましては、那覇市議会において協議した結果を取りまとめましたので、基本構想の立案に当っては、意見の趣旨が生かされますよう要望し、下記のとおり提言いたします。

（1） 総合計画における平和行政について

第 4 次那覇市総合計画では、「平和都市」ということで、かなり平和の部分が強調された計画であったかと思うが、前回の第 4 次総合計画総括の結果、それが絵に描いた餅になっているのではと、指摘した。

今回、第 5 次那覇市総合計画基本構想素案では、「平和」が、「1 まちづくりの将来像」「2 まちづくりの姿勢」「3 めざすまちの姿」の中で「平和」をしっかりと位置づけられていることは評価する。

ただし、第 5 次那覇市総合計画の期間中には、戦後 80 周年を迎え、体験者から直接お話を伺う機会がないという時代に突入する。だからこそ、那覇市がしっかり平和を発信していかなければならないと考える。これらを反省し、絵に描いた餅ではなく、実効性のある計画を策定していただきたい。

（2） まちづくりの将来像について

まちづくりの将来像のタイトル「なはで暮らし、働き、育てよう！笑顔広がる元気なまち NAHA」の中で「働き」について、働いて子育てをとと言うが、例えば、働きたくても働けない事情の方や、子どもを産み育てたくてもできない方々もいる。それらを排除しないような表現ができないか。例えば、タイトルの中から「働き」を削除し、「なはで暮らし、育てよう！～」としてはどうか。この「働き」については、市民提案とのことで尊重したいが、「暮らし」に包含されたい。

「働き」は、タイトルではなく文中で活かすよう検討していただきたい。

また、まちづくりの将来像のタイトルが全て「なは」という言葉がかかっている。那覇で働くということについては、市民の中には、那覇市外で働いている市民も沢山いて、また、市外から那覇市に働きに来る方もいる。「那覇で働き」という表現は、市外で働いている市民からすると、市民感覚的に除外されていると感じてしまう。

暮らしたり、育てたりということは、とてもマッチングするが、「働こう」という表現は、市民提案であり尊重することは大事だと思うが、「那覇で働き」という表現は、検討していただきたい。

※市民提案では、「なはで暮らそう！働こう！笑顔広がる元気なまちNAHA」の中で、「働こう！」に込められた想いについて、「生活するためには企業や産業が活発で働く場がなければならない」とされている。

(3) まちづくりの姿勢について

「(1) 協働の絆」について、文中に「様々な担い手の連携～」とあるが、これを「様々な担い手の強みを活かした連携～」とし、それぞれの専門性を活かした協働が、課題解決を促進すると思われるが、検討していただきたい。

「(5) 共鳴の絆」について、タイトルと内容がわかりづらい。例えば、「人々の発展に向けた想い～」を「発展に向けた人々の想い」としてはどうか、検討していただきたい。

(4) 子ども・教育・文化について

① 子どもに関することは多く書かれているが、文化とか教育、生涯教育に関する視点が少ないのではないかな。100年で築き上げた風格を大切にするのであれば、文化についてもしっかり表記していただきたい。

② 保育や教育の充実のために「市内の小学校をその拠点にします」とあるが、那覇市として小学校区単位のまちづくりを頑張っていくという決意のあらわれという、その趣旨には賛同するが、断言する言い方はいかがなものか。例えば、「市内の小学校等をその拠点に～」としてはどうか。

子どもの貧困等々、様々な子どもの問題は取り上げられている。恐らくその支援が必要な子どもたちは、学校が嫌いな子も多いのではないかと考える。そういった子たちも一緒に地域みんなでまちづくりをしていこう、これから育んでいこうという中で、学校という

拠点を明示してしまうと、その辺が排除された印象になるのかという危惧がある。

小学校区にある、地域包括支援センターや自治会などそのような団体も含めた表現にしていきたい。

③ どんな家庭、境遇、環境であっても全ての子どもたちに対し、学習や進学、就職の支援を行うことは必要である。子どもの貧困対策についても基本構想の中に盛り込むべきである。また、人材育成についても、もっと力を入れた基本構想にしていきたい。

④ 全ての成長過程にある子どもたち、産まれて存在している子どもたちは大事であるが、妊娠期における胎児の成長の視点も必要ではないか。妊娠期を含む全ての成長過程にある子どもたちの主体性や創造性という、その視点を検討していきたい。

⑤ 文化行政について、第3次那覇市総合計画まではその下位計画である那覇市文化振興計画が位置づけられていたが、第4次那覇市総合計画では、那覇市文化振興計画の見直しがなされてなかったため、文化行政に取り組みの弱さがあった印象を受ける。

当該振興計画の策定や文化芸術振興条例制定を含め、文化行政、文化政策に力を入れた第5次那覇市総合計画づくりを進めていきたい。

⑥ 「しまくとうば」と表現されているが、この言葉については、島々のしまくとうば、うちなーぐち、方言など様々あり、うちなーぐち大会、しまくとうば大会などもよく使われている。このひと言の言葉の使い方、例えば宮古の言葉、様々な沖縄各地の言葉が考えられる。その辺ももう少し考えていきたい。

(5) 環境・都市基盤について

ここでの文章の中に「西海岸」「那覇軍港等」というように、より限定した記述がある。次期計画の基本構想であるので那覇市全体の都市基盤のことを表記するものだと認識するが、それを考えると那覇市の東側についてはどうなのかという議論が生まれ、東側の視点が非常に薄く感じる。基本構想であるので、西海岸地域に止まらず市域全体について描き、那覇軍港等については、基本計画に盛り込むほうが望ましい。もう少し、バランスを考えた基本構想にしていきたい。

(6) 「4 重点取組事項」について

- ① 重点取組事項の中の「稼ぐ『力』を高めるしくみづくり」とあるが、このタイトルの中で「稼ぐ」という言葉の使い方がかなり生々しい印象を受ける。文中に出てくるのであれば気にならないが、もう少し品のある表現ができないのか、風格のある表現に言い換えていただきたい。
- ② 重点取組事項の中の「市民との信頼を深める職員・組織づくり」の中で、情報セキュリティ対策に関する表記部分をもう少しわかりやすく工夫できないか、検討していただきたい。

(7) 将来人口について

将来人口については、那覇市まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンに引っ張られた内容となり、夢が足りないものになっている。

そこで、将来人口の維持ということを表現する手段として、「子ども・子育て」というのを別項目とし、第5次那覇市総合計画の特徴のひとつとしてはどうか。

文中の「人口減少に歯止めをかけるには、子育て環境や～」について、人口維持が目的ではなく、個に光をあてる表現に置き換えるべきではないか。例えば、子育て環境や労働環境を充実させ、健康長寿の復活に取り組む、笑顔が広がる元気なまちを築いていくには、人口減少に歯止めをかけなければならない。検討していただきたい。

以上、平成 29 年 6 月定例会における質問や全員協議会における質疑・議員間討議、そして会派からの提案を受けて、第5次那覇市総合計画基本構想素案への評価と提言として、ご報告いたします。

平成 29 年（2017 年） 6 月 26 日

那 覇 市 議 会